

3年計画で、カンボジア最大級の野生生物保護区の森林再生に取り組みます
6／11(土) 第2回「カンボジア プノンペン植樹」開催
650人のボランティアの皆さまと7,000本の木を植えます

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役、以下、当財団）は6月11日（土）、カンボジア王国（以下、カンボジア）において第2回「カンボジア プノンペン植樹」を実施します。

このたび植樹を実施するプノントマウ野生生物保護センターは、首都プノンペンから約45km南方に位置するカンボジア最大級の野生生物保護区です。現在絶滅の危機にある生物を含む98種約1,200以上の動物が保護されており、市民の憩いの場としても親しまれています。一方、敷地内には内戦や生活伐採により荒廃した森林が残され、早期の再生が必要とされています。

当財団は、同センター内の森林再生と生物多様性の保全に取り組むため、2015年より3年計画で植樹をスタートしました。初年度は日本とカンボジアのボランティア730人の皆さまとともに、地域に自生する苗木7,000本の木を植えました。第2回となる今回は650人の皆さまと7,000本を植え、3年間で計21,000本を植樹する計画です。

当財団のカンボジアでの植樹活動は2002年に始まり、世界遺産アンコールワット参道沿い（2002年、2004年、2005年）及びアンコール遺跡群チャウスレイ・ヴィヴォル遺跡（2010年、2011年）において、のべ1,220人以上の方々と植樹を実施しました。同国における累計植樹本数はこのたびの植樹を含め24,000本を超えます。

また、環境分野においてグローバルな視野で活躍する人材育成を目的として、当財団が主催している「アジア学生交流環境フォーラム（ASEP）」に王立プノンペン大学が2015年より参加しています。

当財団はこれからも、次代を担う子どもたちへ豊かな自然を届けるため、植樹活動をはじめ、環境保全活動により一層取り組んでまいります。

記

日時：2016年6月11日（土）9：00～12：00

場所：カンボジア王国 プノントマウ野生生物保護センター内

参加者：650人（カンボジアのボランティア330人、日本のボランティア320人）

本数：7,000本

面積：1.5ha

主催：カンボジア王国農林水産省 森林局、公益財団法人イオン環境財団

協力：プノントマウ野生生物保護センター、AEON (CAMBODIA) CO., Ltd、
AEON MALL (CAMBODIA) CO., LTD.、AEON SPECIALIZED BANK (CAMBODIA) PLC.

出席者：	カンボジア王国	副首相	ソク・アン	様
（予定）	カンボジア王国	農林水産省 大臣	ヴァン・サコン	様
	カンボジア王国	環境省 大臣	サイ・ソムオール	様
	公益財団法人イオン環境財団	理事長（イオン株式会社 名誉会長相談役）	岡田 卓也	

以上

ご参考

【公益財団法人イオン環境財団について】

当財団は「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、１９９０年に設立されました。設立以来、環境活動に取り組む団体への助成や、国内外での植樹、生物多様性への取り組みを主な事業として、さまざまな活動を継続しています。イオンの植樹は１９９１年のスタートから数え、累計植樹本数が１,１００万本を超えました。

▶公益財団法人イオン環境財団ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>

【第１回「カンボジア プノンペン植樹」について】

２０１５年６月２７日（土）、ボランティアの皆さま７３０人と７,０００本を植樹



【イオンのカンボジアにおける環境・社会貢献活動について】

■「バットバン義肢センター」支援（１９９８年～２０００年）



公益財団法人イオンワンパーセントクラブ（以下、イオン１％クラブ）は、日本赤十字社とのパートナーシップのもと、１９９８年より３年間にわたりカンボジア・バットバン義肢センターを支援しました。バットバン義肢センターは、地雷により被害を受けた人々へ義肢の支給や、リハビリを通じて社会復帰を支援する施設で、イオングループ店舗、事業所での募金及びイオン１％クラブからの寄付金をあわせ同センターに１億７,３００万円を寄付し、支援にお役立ていただきました。

■学校建設支援事業（２０００年～２００３年）

長く続いた内戦によって失われたカンボジアの教育基盤の早期回復を願い、２０００年よりイオングループ店舗、事業所での募金を実施し、イオン１％クラブからの寄付金をあわせ総額３億円を日本ユニセフ協会へ寄付しました。日本ユニセフ協会とのパートナーシップを柱に１５０校を建設し、これまでに約２０万３,０００人以上の子どもたちが学校を卒業しています。



２００１年 カンボジア

■アンコールワット植樹（２００２年、２００４年、２００５年）・

アンコールワット遺跡群チャウスレイ・ヴィヴォル遺跡植樹（２０１０年、２０１１年）

■イオン ふるさとの森づくり（２０１４年）

（公財）イオン環境財団は、２００２年および２００４年、２００５年の３年間にわたり、世界遺産アンコールワット参道脇に８８０人以上の方々と７，１００本の植樹を行いました。また、２０１０年、２０１１年には、アンコール王朝の遺跡周辺に風雨から遺跡を守る森をつくるべく、３４０人の方々とともに３，２６０本の木を植えました。

２０１４年６月にはイオンモールプノンペンのオープンに先駆け、イオングループによる「イオン ふるさとの森づくり」が開催され、地域の皆さま１，５００人とともに約１０，０００本の植樹を行いました。



２００５年



２０１０年

■「シハヌーク・イオン博物館」寄贈（２００７年）

「シハヌーク・イオン博物館」は、上智大学アジア人材養成研究センターが２０００年、２００１年の期間に発掘したアンコール王朝期の仏像を保存・展示すべく、イオン１％クラブの寄付と上智大学の石澤 良昭教授チームとアプサラ機構の協力のもと、建設されました。カンボジアの文化遺産をカンボジアの方々の手により研究・保存いただくために国へ寄贈し、２００７年１１月の完成式典にはシハモニ国王陛下もご臨席されました。

■イオン・ユニセフ セーフウォーターキャンペーン（２０１０年～２０１５年）



カンボジア、ラオス、ミャンマーの一部地域では、子どもたちの家事労働への負担が大きく、学校への出席率が低下しています。生活用水に不衛生な水が使われ、子どもたちは水汲みに時間が取られるなど衛生面、教育面でも問題となっています。イオン１％クラブは各国の子どもたちの健全な育成を支援していくために、子どもたちがくらす村や町に給水施設を設置する「イオン・ユニセフ セーフウォーターキャンペーン」を２０１０年から２０１５年まで実施し、これまでにカンボジアで２９万５，０００名が、累計では約３７万８，０００人の方々が安全な水を使えるようになりました。

■ティーンエイジ アンバサダー／イオン スカラシップ

「ティーンエイジ アンバサダー」は、イオン１％クラブによる日本とアジアの次代を担う子どもたちへ価値観の多様性とグローバルな視野を持つ機会を提供する国際交流事業で、１９９０年より実施しています。これまでに、日本を含む１８カ国２，０５２人の高校生が交流し、うちカンボジアとのプログラムでは１２０人が交流しました。

また、日本で学ぶアジアからの留学生及びアジア各国の大学生・大学院生に奨学金を付与する「イオン スカラシップ」では、これまでに７カ国４，３９３人の学生に奨学金を支給し、うちカンボジアからの留学生及び同国内の学生３５人に奨学金を支給しました。

■理事長 岡田卓也がカンボジア王国友好勲章大十字型章を受章（２０１０年）

長年にわたるカンボジア王国への環境・社会貢献活動がカンボジアの経済、文化交流の発展に貢献したと評価を受け、カンボジア王国より２００７年に「Le Grand Officer（将校章）」を、また、２０１０年には最高位である「Royal Order of Sahametrei Grand Cross（友好勲章大十字型章）」を親授されました。

